国語・根拠と具体例を結ぶ説明文読解ワーク

生徒用｜独自説明文12問｜解答は別冊

対象	東京都立高校の共通問題を受検する中学3年生
単元	説明文・根拠読解・情報整理
問題構成	基礎4問・標準4問・本番形式4問
対象点数	国語50〜80点を目指す層
難易度	基礎〜標準
目標時間	50分
公式確認日	2026-08-22

教材の目的

独自の短い説明文を読み、設問が求める内容を確かめ、主張を支える根拠、具体例と主張の関係、情報の適否を順に整理する力を養う。

都立入試に向けた確認事項

東京都教育委員会が令和8年の指導改善の視点として示した、考えを支える根拠となる段落や部分への着目、具体例と書き手の主張との関係の把握、情報の適否を見極めた整理に対応する。文部科学省の中学校学習指導要領解説（国語編）が示す、意見と根拠、具体と抽象、情報の信頼性の学習も踏まえる。

読み取りの手順

・設問の中心語と、求められる答えの形式を先に確認する。

・本文中で設問と同じ内容を述べる語句や文に線を引く。

・具体例が、どの主張をどのように支えているかを短く言い換える。

・答えを書いた後、本文の根拠と意味がずれていないか照合する。

見直しチェック

・設問が理由・役割・主張・情報の適否のどれを求めているか確認した。

・本文中の根拠に線を引いた。

・具体例だけでなく、それが支える主張まで確かめた。

・本文にない推測や自分の意見を混ぜていない。

・指定された語句・一文・字数程度などの答えの形式を守った。

都立入試ナビ

基礎問題

問題 1

本を開くまでの工夫

教材用に独自作成した文章

朝の読書を続けるには、長い時間を用意しなければならないと思う人がいる。しかし、最初から十分な時間を求めると、忙しい日は本を開かなくなる。私は前日に読む本を机の上に置き、翌朝は五分だけ読むことから始めた。読書時間の長さより、読み始めるまでの迷いを小さくする工夫が大切だ。小さく始めると、五分を過ぎても自然に読み続ける日が増えていく。

設問

筆者が、朝の読書を続けるために大切だと考えていることを答えなさい。

答えの形式

本文の言葉を用いた二十五字程度の名詞句。

解答欄

問題 2

駅の案内板

教材用に独自作成した文章

駅の案内板には、多くの情報を載せれば親切になるとは限らない。初めて来た人が知りたいのは、まず出口の方向や乗り換えの場所である。例えば、ある駅では出口ごとに近くの建物を一つだけ大きく示したところ、立ち止まって周囲を見回す人が減った。必要な情報を、使う順序に合わせて目立たせることが、分かりやすい案内につながる。情報を減らすことは不親切ではなく、選びやすくするための整理なのである。

設問

『ある駅』の具体例は、筆者のどの考えを支えていますか。

答えの形式

『～という考え』で終わる一文。

解答欄

都立入試ナビ

問題 3

観察記録の二つの欄

教材用に独自作成した文章

植物の観察記録に、見た事実と考えたことを同じ欄へ書くと、後で読み返したときに区別しにくい。『葉が三枚増えた』は観察した事実だが、『日当たりがよかったからだ』は理由についての考えである。そこで、記録用紙を『見たこと』と『考えたこと』の二欄に分けると、根拠と考えを結び直しやすくなる。事実と考えを分けて記録することは、考えを弱めるのではなく、何を根拠にしたかを明確にする。

設問

『葉が三枚増えた』という情報は、どのような情報ですか。

答えの形式

本文中の五字で答える。

解答欄

問題 4

話し合いの沈黙

教材用に独自作成した文章

話し合いで沈黙が生まれると、進行が止まったように感じることがある。けれども、すぐに次の発言を求めると、考えをまとめている人の時間を奪ってしまう。ある学級では、質問の後に三十秒だけ各自がメモを書くようにした。すると、発言の数だけでなく、前の意見を受けた発言も増えた。沈黙をなくすのではなく、考える時間として使い方を決めることが、話し合いを深める。

設問

学級の具体例から分かる、三十秒のメモ時間の効果を答えなさい。

答えの形式

二つの効果を一文で答える。

解答欄

都立入試ナビ

標準問題

問題 5

失敗を残す設計図

教材用に独自作成した文章

完成した作品だけを見ると、うまくいった手順が最初から分かっていたように見える。しかし、制作の途中には、材料を替えたり、形を戻したりした試みがある。ある班は、使わなかった案にも『重くなりすぎた』『組み立てに時間がかかった』と理由を添えて残した。その記録を見た別の班は、同じ失敗を避けながら新しい案を考えられた。失敗の記録は完成への遠回りではなく、次の判断に使える設計図になる。

設問

筆者は、失敗の記録を何にたとえていますか。また、その理由も答えなさい。

答えの形式

たとえと理由を二文以内で答える。

解答欄

問題 6

一枚の写真と全体像

教材用に独自作成した文章

一枚の写真は、その場所の様子を具体的に伝える。だが、撮影した方向や時刻が違えば、同じ場所でも印象は変わる。昼休みの校庭を写した写真だけを見て『いつも混雑している』と判断するのは早い。朝や放課後の写真、利用人数の記録も合わせれば、時間帯による違いが見えてくる。具体的な一場面は理解の入口になるが、全体を説明するには複数の情報を組み合わせる必要がある。

設問

筆者が、昼休みの写真だけで『いつも混雑している』と判断するのは早いとする理由を答えなさい。

答えの形式

『〜から』で終わる一文。

都立入試ナビ

解答欄

問題 7

共有ノートの役割

教材用に独自作成した文章

班活動の共有ノートは、全員が同じ文章を書くためのものではない。調べたこと、疑問、次に確かめたいことを分けて残すと、読む人は現在地をつかみやすい。例えば、調べた事実の横に『出典をもう一度確認する』という疑問があれば、その情報を確定事項として使うのを待てる。共有とは、結論だけをそろえることではなく、どこまで確かめたかを見えるようにすることである。途中の状態が分かれば、次の人は同じ作業を繰り返さずに先へ進める。

設問

筆者が考える『共有』とはどのようなことですか。

答えの形式

本文の表現を用いて三十字以内で答える。

解答欄

問題 8

便利さを確かめる質問

教材用に独自作成した文章

新しい道具を『便利だ』と評価するとき、その言葉だけでは何がよくなったのか分からない。時間が短くなったのか、間違いが減ったのか、持ち運びやすくなったのかを分けて確かめる必要がある。ある係は、連絡用の仕組みを変えた後、送信時間だけを比べて成功とした。しかし、読み落としが増えていないかは調べていなかった。便利さを確かめるには、目的に合う質問を複数用意し、良くなった面と新たな課題の両方を見ることが大切だ。

設問

係の評価には、どのような情報が不足していましたか。

都立入試ナビ

答えの形式

不足した確認内容を一文で答える。

解答欄

本番形式問題

問題 9

二つの地図を重ねる

教材用に独自作成した文章

地域の安全を考えるとき、一種類の地図だけでは見えにくいことがある。通学路の地図には、毎日歩く道が示される。一方、雨の日に水がたまりやすい場所の地図には、普段は気付きにくい危険が示される。ある学校では二つの地図を重ねたところ、多くの生徒が通る道と水たまりやすい場所が重なる地点を見つけ、雨天時だけ別の道を案内した。情報を組み合わせる価値は、量を増やすことではなく、別々では見えない関係を発見できることにある。

設問

筆者は、情報を組み合わせる価値をどのように説明していますか。学校の例との関係も含めて答えなさい。

答えの形式

価値と具体例の対応を二文以内で答える。

解答欄

問題 10

速さと確かさの間

教材用に独自作成した文章

災害時の連絡は早さが求められるが、確かめずに広めた情報は、かえって行動を遅らせる。大切なのは、すべてを長く調べてから伝えることではない。発信者、時刻、元の案内という三点を短い手順で確認し、

都立入試ナビ

確認できた範囲を明らかにして伝えることである。例えば、『十時現在、学校から届いた案内では体育館を開放する』と示せば、受け手は情報の時点と出所を確かめられる。速さと確かさは二者択一ではなく、確認の手順を共有することで両立できる。

設問

例の連絡文に『十時現在』『学校から届いた案内』と示すことが適切なのはなぜですか。

答えの形式

『～から』で終わる四十字以内の一文。

解答欄

問題 11

図書館の棚の入口

教材用に独自作成した文章

図書館の本を分類番号だけで並べると、目的の本が決まっている人には探しやすい。一方、何を読みたいかまだ決まっていない人には、分類の意味が分からず棚の前を通り過ぎることがある。そこで、ある図書館は『短い時間で試したい』『じっくり考えたい』という読み方の札を一部の棚に加えた。すると、題名だけでは選ばなかった分野の本を手に取る人が現れた。分類をなくすのではなく、選び始めるための別の入口を足すことが、利用者の選択を広げる。

設問

筆者は、分類番号と読み方の札をどのような関係にあるものとして捉えていますか。

答えの形式

両方の役割を対比した一文。

解答欄

都立入試ナビ

問題 12

木陰の使われ方を調べる

教材用に独自作成した文章

校庭に木陰を増やせば休む人が増える、と予想した委員会があった。委員会は晴れた日の昼休みに一度だけ人数を数え、木陰の近くにいた人が多かったため、予想は正しいとまとめようとした。しかし、その日は体育行事の練習があり、集合場所が木陰の近くだった。そこで別の日、気温、行事の有無、滞在時間も記録すると、暑い日は休憩に使う人が増える一方、涼しい日は通り過ぎる人が多いと分かった。予想を確かめるには、都合のよい数だけでなく、その数が生まれた条件まで調べる必要がある。

設問

最初の調査結果だけでは、委員会の予想を十分に確かめられない理由を二つ答えなさい。

答えの形式

不足または影響した条件を二つ、並列に答える。

解答欄

提出前の最終確認

・設問が理由・役割・主張・情報の適否のどれを求めているか確認した。

・本文中の根拠に線を引いた。

・具体例だけでなく、それが支える主張まで確かめた。

・本文にない推測や自分の意見を混ぜていない。

・指定された語句・一文・字数程度などの答えの形式を守った。

公式情報確認日：2026-08-22 自己確認日：____年__月__日

都立入試ナビ